

こころの便り

第224号

平成30年11月

〒679-1434
兵庫県たつの市新宮町大屋六六ハ一十二
株式会社新宮運送グループ
代表/木南 一志
kminami@shingu.co.jp
電話079-1175-1212

働き方改革

暑い暑いと毎日あいつつしていたことが嘘のように肌寒さがやってきました。秋がこれから深まってまいります。私たちがどう感じようと、季節は確実に冬に向けて進んでいきます。

政府はオリンピックに向けて、「働き方改革」を休日増、残業なしという形で進めています。事務系のホワイトカラーという職種の方々にとつてみると嬉しいことかもしれませんが、トラックドライバーや建設関係の現場で汗する仕事に従事する方にとっては、どうにもできない改革でもあります。空の下でする仕事は天気との相談になりますし、遠くまで運ぶ仕事は時間が限られてしまうと途中で帰るなんてことになります。笑話では済まない現実がそこまで来ているように思います。

中小零細の企業にとつて、社会保険料は知らないうちに引き上げられて給料の手取りを減らしたかのように社員の皆さんから思われて、所得税や住民税は給料天引きで事務処理の費用は無料です。行政の手続きは、年々ややこしくなるばかりで、特に運送業という法律にくくられている業種は手続きだけで振り回されることにもなりかねません。

厳しい指導の下、会社に出できたらアルコールチェッカーを毎日吹く、4時間連続運転したら30分間の休憩、一日の仕事を終えたら8時間あけないと次の仕事にかかれないなど、規制が厳しくなる一方で、渋滞して時間が過ぎた場合でも罰則は罰則、サービスエリアで駐車スペースがないので次のサービスエリアへと移動したら休憩が取れて

いないと指摘を受けることになります。コンピュータ管理ができていくことが仇となって、アナログ時代には分からなかったことが問題になっていきます。考えてもみてください。制限速度40キロの道路を41キロで走って速度違反キップを切られるとしたら、世の中はどうなっていくのでしょうか。違反をしてもいいということではありません。守るべきことは何かをハッキリさせなくてはならないと思うのです。スピードを出さないということではなく、交通事故を起こさないことが目的であつて、道路では譲り合うことが大切なルールのはずです。時間や速度を守ることが事故が減るわけではありません。

規制を強化しなくてはならないという言い分も理解することはできませんが、実は本当に大切なことを示していないから、このようなことになるのではないのでしょうか。

憲法改正の議論が真剣に行なわれて、日本の国をこのような国にしようという機運を生み出さなくては法律、規制だらけの国になってしまうことでしょう。

我が社の社員の皆さんには、この国をどうするかという意見を持てる人になっていただきたいし、正しいことをハッキリと口にできる人であつてもらいたいと念願しています。

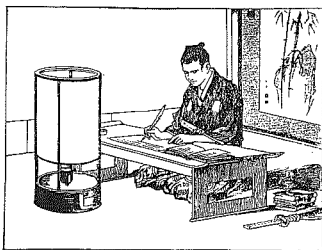
日本という国があるから、平和に暮らしていけることを忘れてはなりません。

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拝

尋常小學校修身書 卷五 兒童用

第十四課 勉學



勝安芳は若い時、西洋の良い兵書を読みたくて、しきりにさがしてゐましたが、其の頃、舶來の書物は少くて、なか／＼手に入りませんでした。或日、本屋でふとオランダから新着の兵書を見つけました。見ればなかなか良い本で、ほしくてたまりません。價をたづねると五十兩とのこと。安芳は其の頃大そう貧乏で、とてもそんな大金は拂へません。家に歸つていろいろ考へた末、あちこちと親類などに相談して、十日あまりもかかつて、やつと其の金をこしらへました。すぐにさきの本屋にかけつけますと、本はもう賣れてしまつてゐたので、がっかりしました。しかし、どうしてもそのまゝ思ひ切ることが出来ません。そこで買った人の名を聞いて、やつと其の家をたづね出し、わけをくはしく話して、「ぜひあの本をおゆづり下さい。」と頼んだが、持主はなかなか聞入れません。「それでは、しばらくお貸し下さい。」と言ふと、「それも出来ません。」とことわられました。安芳はしばらく考へて、「あなたが夜おやすみになつてから後でなりと、どうかお貸し下さいませんか。」と折入つて頼むと、「それ程に御熱心ならば、見せて上げませう。しかし、外へ持出されては困ります。」と言ふので、安芳は次の夜から持主の宅で寫させてもらふことにしました。それから毎夜一里半もあるところを通つて、雨が降つても風が吹いても、約束の時刻におくれたことがなく、半年もかかつて、とうとう八冊の本を寫し終りました。其の時、意味の分らないところを持主に問ひますと、持主は、「お恥づかしいことには、私はまだ讀終らないので、お答へが出来ません。それにあなたはこれを寫して、其の上そんなにくはしくおしらべになつたのは感心です。私のやうな者が此の本を持つてゐても、益のないことですから、あなたに差上げます。」と言ひました。安芳は、「私は寫させてもらつたのでたくさんです。二通りは入りません。」とことわつたが、無理にすゝめられるので、とう／＼もらひました。安芳はかやうに學問に勵んだので、後にはりつぱな人になりました。

NPO法人 愛ランド様の協力で障害を持つ皆さんが宛名貼り、封入作業をしてお届けさせて頂いておられます。